



2022湖っ子食育大賞

大賞は、彦根市立河瀬小学校に決定！

滋賀県教育委員会では、児童生徒が正しい食事のとり方や望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校を中心に家庭・地域とも連携した食育を推進しています。

平成19年度に学校や園の特色を生かした優秀な食育の取組を表彰する「湖っ子食育大賞」が創設され、令和4年度は16年目となり、県内の学校から8校の応募がありました。審査の結果、大賞は彦根市立河瀬小学校に決定しました。

～受賞校の概要～

大賞 彦根市立河瀬小学校

「ICTや外部人材を活用した食育の推進について」をテーマに取り組みられました。地域の方等の外部人材を活用した対面での体験学習と、タブレット等を活用した食に関する指導の両方の手法を用い、それぞれの良さを生かした実践が行われています。食に関する指導の全体計画・年間計画共に詳細に計画されており、特に発達段階に合わせて学年ごとに位置付け・計画されていることは大変素晴らしく、他の地域においても食育活動を推進する上で非常に参考になると考えます。

児童への詳細な食生活アンケートが実施され、食に関する指導に反映されていると共に、課題と評価の検証から、次年度への効果的な取組につなげられています。PDCAサイクルに基づいた食育推進が行われており、まさにお手本となる素晴らしい実践となっています。



タブレットを活用した授業の様子

優秀賞 高島市立新旭北小学校

「給食すごろくで残食を減らそう!」をテーマに、給食の残食を減らすことを中心に取り組まれています。給食を残してしまう原因をアンケート等から分析し、さらに給食委員会で検討した上で、新旭北小学校に合った方法を見出して取り組まれています。残食を減らすために、ゲーム的な要素を用いられた点はユニークです。また、残食を減らすという目標を児童個人に努力させるだけでなく、クラス全体として取り組み、成果の出たすばらしい取組となっています。

優秀賞 日野町立桜谷小学校

「健康で生き生きとした生活を送り、豊かな心を育成する食育指導を目指して」をテーマに取り組まれています。小規模校の利点を生かし、全校で組織的に取り組む推進体制が構築されています。地域との連携による本物体験が魅力的であり、『HOT けん桜谷隊』や JA、保護者の方の指導による栽培活動等、土に親しむリアルな体験から生まれる食べ物への想いも育まれています。また、学校からの情報発信やフィードバックも積極的に行われています。

優秀賞 大津市立瀬田北中学校

「食べ物に興味を持ち、学校給食の残菜量を減らす食育の取り組み」をテーマに取り組まれています。食育動画・食育掲示板・食育だよりといった栄養教諭が配置されているからこそその取組が充実して行われています。

生徒への詳細な給食アンケートが実施され、実態把握を行った上で取組が行われています。中学校での食育推進は難しい現状がある中、給食を教材とした家庭科での授業実践や、給食委員会による生徒の主体的な活動など、中学校での食育推進の参考となる実践が学校全体で行われています。

優秀賞 滋賀県立長浜養護学校

「給食ができるまでと食べ終わってからを知る」をテーマに取り組まれました。食に関する指導の全体計画・年間計画共に詳細に計画されており、地域と連携した栽培活動の実施や、作業活動で栽培した野菜を給食で活用するなど、学校全体で食育の取組が行われています。ICT を活用した複数の取組が行われており、特に厨房と教室をリアルタイムでつなぎ、調理の様子を見ていた給食を食べるという取組は印象的です。また、「食べ終わってから」にも焦点を当てる指導にも工夫があります。授業後に教職員にアンケートを実施し、効果の検証も行われています。

食育大賞および優秀賞を受賞されました5校には、記念品としてお祝いの「焼き海苔」をイメージして作られた信楽焼の盾を贈呈しました。

〈 湖っ子食育大賞 支援・協力 〉

公益財団法人 滋賀県学校給食会(副賞・表彰記念品制作)

県立信楽高等学校(表彰記念品制作)

